

バイキング給食と 学校運営協議会

11月15日金曜日に、バイキング給食による交流イベントを行いました。子どもたちと保護者、ボランティアバンクの皆さん、そして学校運営協議会の皆さんによる交流です。当日は、8名の保護者の皆さん、11名のボランティアの皆さん、そして、私を含め8名の学校運営協議会の皆さんが参加してくれ、子どもたちと合わせて総勢62名の皆さんと一緒においしい給食を食べることができました。

普段、小2や幼稚部は、給食指導の観点から各教室で給食を食べているのですが、この日だけは、食堂にみんな集まって一緒に食べました。また、バイキングなので、工夫された様々な献立を選んで食べられるのも楽しかったですし、おかわりが自由にできたのも楽しかったです。多くのメニューは、函館や道南でとれた地元の食材を使用していたのも自慢です。本校の学校運営協議会委員でもあり、ボランティアバンクにも参加して下さっている深堀町会の谷山会長様は、メールで感想をお寄せくださいました。とても嬉しい感想でしたので紹介させていただきます。

「児童が苦手なブロッコリーを克服しようとする姿やお母様の優しく見守る芯の強さに感動いたしました。大変な中でも素敵な子育てが出来ていますね。先生とも交流させていただき、ボランティア活動を通して私も子どもたちの成長を見守る1人でありたいと思いました。早速献立を参考に弁当のおかずを作りました。」

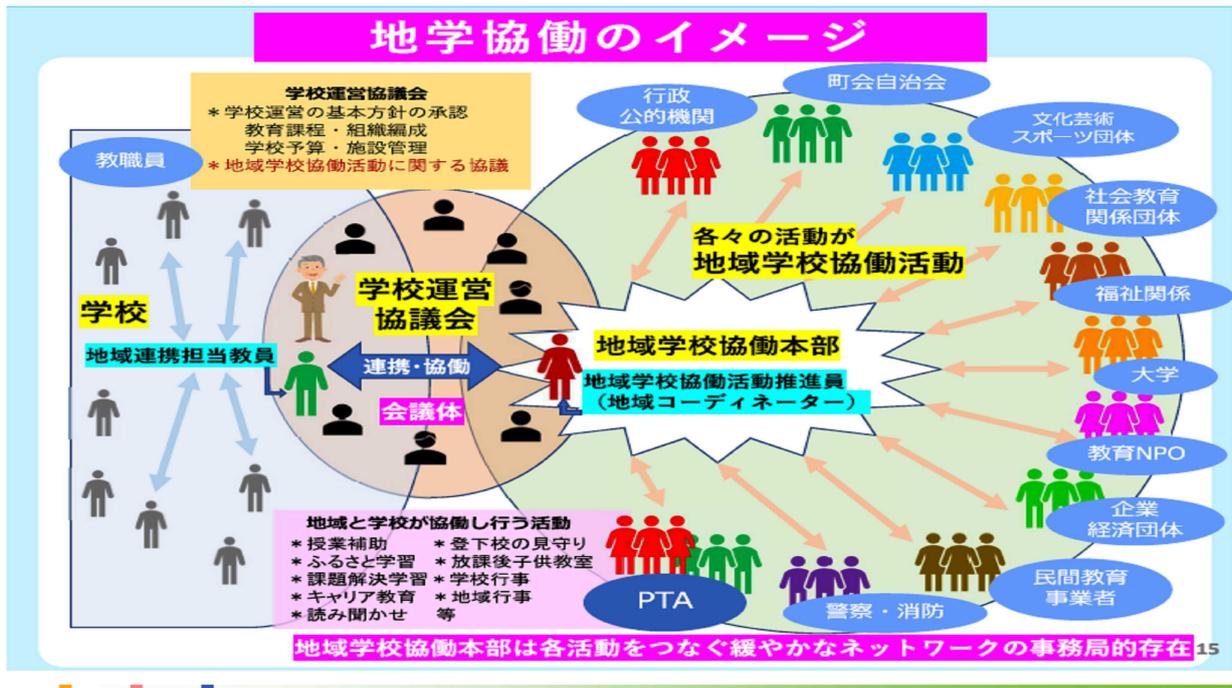
文章の中で「子どもたちの成長を見守る1人でありたい。」とだけ思っていただけ本校の子どもたちは幸せだと思いましたし、地域の皆様にそのように思っていただけることが本当にありがたいと思いました。ありがとうございます。

今回の交流イベントを通して、学校運営協議会をおくコミュニティスクールとして、函館聾学校が地域の皆様に愛され、より発展していけるように推進したいと思いをしました。また、「函館聾学校ボランティアバンク」を通して地域学校協働活動がより深まっていけるように充実させていきたいと改めて考えました。



午後からは、学校運営協議会を行いました。今回は、北海道の地学協働アドバイザーである青田基氏に来ていただき、「コミュニティスクールとは何か?」、「地域学校協働本部（活動）

とは何か?」について改めて認識を確かめることができました。また、青田様の派遣にご尽力くださった渡島教育局の社会教育主事である松田夕紀様にもオブザーバーとして参加していただきました。



協議会の話し合いの中で、青木委員から、「ボランティアバンクの活動は、地域と学校のゆるいつながりの新しいモデルになり得るのではないかと思います。」という御意見をいただきました。

このことは、本校では、上記の図の中の「地域学校協働本部」のところに、「本部」はありませんが、「地域学校協働活動」として「函館聾学校ボランティアバンク」があります。このことが、特別支援学校の中で「新しいモデル」になるのではないかと価値付けていただけたと感じ嬉しく思いました。函館聾学校の校区は渡島・檜山管内であり、地域というには広すぎます。「教職員が求める教育活動」と「本校ができる地域貢献」をミッションとして、ピンポイントに実現していければ、この取組をより深めていけるのではないかと感じました。

また、函館聴覚障がい者協会の田中委員からは、「ボランティアバンクの登録を、卒業生がしたという話を聞いた。例えば、団体として登録をして、団体の中から必要に応じて人員を派遣するということが可能ではないかと考えた。」と発言していただきました。私としては、学校内の手話環境を整えるために、手話のネイティブサイナーである聞こえない人が参画する乳幼児相談などへのボランティア参加があると助かると思っていたので、ものすごくありがたい話だなと思いました。運営協議会副委員長の京谷様からも「福祉業界も、例えば包括支援センターとして登録して、可能な人が行くとなると可能性が広がる。」と発言していただき、心強く感じました。本当にありがとうございます。

今後とも、本校の教育活動に御理解と御支援の程をどうぞよろしく御願いたします。

